

5 施設配置の考え方

豊橋東口駅南地区に立地する総合文化学習センター（仮称）は、特徴のある4つのエリアで構成されていますが、各エリアの専門性に留意しながらも、それぞれに有機的なつながりを持たせ、お互いの活動が見えるオープンな施設配置を目指します。

また、その配置に当たっては、利用者の動線、遮音性、搬出入などや、防災・安全、環境への配慮を行うとともに、施設全体においてユニバーサルデザインに配慮し、高齢者や障害者だけでなく、市民誰もが安心して利用できる施設となるよう配慮します。さらに、できる限り市民や文化団体の自主的な使用が可能となるような、管理面に配慮した施設計画を目指します。

6 整備手法等

総合文化学習センター（仮称）は、市街地再開発事業による整備を目指していますが、市街地再開発事業の動向によっては、市が主体となる従来方式や民間の資金と能力を活用したPFI方式などによる整備も想定されます。

いずれの場合も建設費や維持管理費の縮減について十分な検討を行い、駅南地区の基盤整備の進捗に合わせ具体的なスケジュールを作成します。